

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種について

1 ヒトパピローマウイルス（HPV）とは

HPVには100種類くらいのタイプがあり、子宮頸がんなどの原因となるHPV16型、18型（高リスク型）と、HPV6型、11型（低リスク型）などに分類されます。HPV16型、18型を含む約15種類がハイリスクタイプに分類され、子宮頸がんを引き起こします。HPV16型、18型は子宮頸がんから多くみつけるタイプで、子宮頸がんの約6割の原因です。HPVに感染しても多くの場合、感染は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間続くと、子宮頸がんを発症することがあります。HPVは特別な人だけが感染するのではなく、多くの女性が一生のうちに一度は感染するごくありふれたウイルスです。

2 子宮頸がんとは

子宮頸がんは子宮の入口にできるがんで、「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が主な原因で引き起こされるがんです。子宮頸がんは若い女性に多く見られ、20～30歳代の女性に特に増えています。子宮頸がんの初期は、自覚症状がほとんどなく、不正出血などの症状が現れた時には、がんが進行していることがあります。

3 ヒトパピローマウイルス感染症予防接種について

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種には、現在、「サーバリックス」と「ガーダシル」の2種類のワクチンがあります。

この2種類のヒトパピローマウイルス感染症予防接種により、高リスク型に起因するHPV16型、18型の子宮頸がんの感染を防ぐことができます。（効果について直接比較したデータはありません。）それ以外の高リスク型のHPVの感染は予防できません。また、すでに感染しているHPVを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変（がんになる前の異常な細胞）の進行を遅らせたり、治療することはできません。既にHPVに感染している人に対して、ワクチン接種をしても症状の悪化などは報告されていません。

「ガーダシル」は、この他、尖圭コンジローマの原因となるHPV6型、11型（低リスク型）の感染を予防することができます。ヒトパピローマウイルス感染症予防接種は、HPVに感染する可能性が低い10代前半に接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。抗体と効果の持続については現在も経過観察が続けられています。そのため、将来、追加接種が必要となる可能性もありますので、今後得られる情報に注意してください。

また、予防接種は定期的な子宮がん検診の代わりとなるものではありません。予防接種に加えて、早期発見のために、子宮がん検診を定期的に受診することが重要です。

4 副反応について

接種後に注射した部分が腫れたり、痛むことがあります。この痛みや腫れは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くためにおこります。通常は数日間程度で治まります。

吐き気、下痢、腹痛、頭痛、発熱、筋肉・関節の痛み、発疹などの症状が起こる場合があります。

重い副反応として、まれに、アナフィラキシー症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）があらわれることがあります。

また、予防接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。

5 接種回数及び接種方法

十分な予防効果を得るためには3回の接種が必要です。予診のうえ1回0.5mlを筋肉内に接種します。

【接種間隔】 (標準的なスケジュール)	ワクチン名	サーバリックス	ガーダシル
	2回目接種間隔	1回目の接種から1か月後	1回目の接種から2か月後
	3回目接種間隔	1回目の接種から6か月後	1回目の接種から6か月後

※ いずれのワクチンも同じワクチンを3回続けて接種することになっています。（途中からワクチンを変更することはできません。）

※ 片方のワクチンが終了した後、他のワクチンを接種することもできません。

※ 接種途中で妊娠した場合、接種は継続できません。その後の接種については医師にご相談ください。

裏面につづく



6 次の方は接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱している方。(通常37.5℃以上をいいます。)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方。
- ③ 本剤の成分によってアナフィラキシーをおこしたことがある方。
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

7 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ① 血小板が少ない方や出血しやすい方。
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方。
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ④ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方。
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方。
- ⑥ 本剤の成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方。
- ⑦ 妊婦又は妊娠している可能性のある方。(3回の接種期間中を含む)また、現在、授乳中の方。

8 接種前の注意

- ① この説明書をよく読み、予防接種の必要性や副反応について、理解したうえで接種してください。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問してください。
- ② 接種前日は入浴(又はシャワー)をし、体を清潔にしましょう。
- ③ 予防接種は、体調の良い日に受けてください。
- ④ 予診票は医師の大切な情報源になりますので、正確に記入してください。

9 接種後の注意

- ① 接種後に、重いアレルギー症状が起こることがありますので、すぐに帰宅せず、接種後30分間は安静を保ち、様子を観察するようにしましょう。
- ② 接種後は、接種部位を軽くおさえ、揉まないようにしてください。
- ③ 接種当日は、入浴をしても差し支えありません。接種部位を清潔に保ってください。また、いつも通りの生活をし、接種後丸1日は、はげしい運動は避けてください。
- ⑤ 予防接種をした部位が赤くなったり、腫れたり、痛んだり、軽い発熱などが起きることがあります。接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合や、体調の変化、高熱、けいれん等の異常な症状が生じた場合には、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑥ 注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。

10 健康被害救済制度

予防接種により、万一、健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によるものであると認定された場合には、予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度が適用されます。

【問合せ】 小平市健康福祉部健康推進課 電話:042-346-3700 FAX:042-346-3705